

三浦市

下町・城ヶ島 活性化の第2事業

CFBMを事業者

三浦市は、下町・城ヶ島地区活性化第2事業の事業者公募で、「昭和の漁師街復活活性化プロジェクト」商店街のテーマパーク化」を提案したシー・エフ・ビルマネジメント(横浜市港南区)を選定した。同社は今後、商店街に観光案内所や芸術家の作品展示スペースを設置するほか空きビルの取得を進め、従来にない店舗を誘致する。下町・城ヶ島地区の街全体をテーマパーク化して来街者の回遊性を高め、活性化を目指す。

活性化第2事業の対象「ヶ島地区」。昭和初期の1地として利用されている三崎1丁目バスローは建築物が多く残るエリア。タリー付近の「下町・城」で、映画やドラマのロケシー・エフ・ビルマネ

ジメントが提案した活性化

化策は、まず、バスローを新規に募集し、ショッタリー前にある自社ビルに陶芸家・澤田痴陶人美術館を設置し、観光案内所としての機能を持たせる。現在、エリア内で空きビルなどの取得を進めており、現在の下町・城ヶ島地区にはないテナント

を新規に募集し、ショッティングを業しめる街並みを整える。テナントの育成では、グループ会社による「起業塾」を開校し、出店から経営をサポート。活性化により増加する働く世代の居住者の増加も見込んでいる。

事業期間は2011

12年度の2年間。三浦市の4(限度額150万円)は毎年、総事業費の5分を助成する。